

主催

令和5年度

ECEQ®コーディネーター報告書

作成日 令和6年1月10日

作成者 楠見由紀

実施園園長確認署名

印

基礎情報内容	実施園情報
法人名	学校法人 正円寺学園
理事長名	金仙 宗哲
園名	認定こども園 牛川育英幼稚園
園長名	金仙 昭子
担当者名	金仙 直宏
住所	愛知県豊橋市牛川町字浪ノ上10番地
電話番号	0532-54-7967
FAX 番号	0532-54-7968
メールアドレス	ikuei@mx3.tee.ne.jp
園児数	231名(11月現在) 定員245名
学級と人数	0~1歳児 1クラス 17名 2歳児 2クラス 31名 3歳児 3クラス 56名 4歳児 3クラス 65名 5歳児 3クラス 62名
教職員数	44名

メインECEQ®コーディネーター名	楠見由紀 co-No. EH29230241			
サブECEQ®コーディネーター名	氏名	co-No.	氏名	co-No.
	伊藤 高子	EH28230204	村手 敦	EH26230085
各STEP 実施履歴	STEP 1	令和5年 6月 23日(金)	13:30~15:30	
	STEP 2	令和5年 6月 23日(金)	16:15~18:00	
	STEP 3	令和5年 9月 6日(水)	16:15~18:00	
	STEP 4	令和5年 11月 2日(木)	9:30~16:00	
	STEP 5	令和5年 11月 17日(金)	15:00~17:30	

## 各STEPを通して

### 1. STEP1やSTEP2で抽出された自覚的な良さや課題

ステップ1と2で共通の自覚的な良さは、職員間の仲が良いため明るく温かい雰囲気であること。子どもの思いを大切にしながら活動を行っているため自由でのびのびとした園児の姿が見られることなどでした。

課題としてトップリーダーからは、保育者が丁寧に関わり子ども達が主体的に活動する保育ができてはいるが、保育者が頑張りすぎてしまっていることや、思いや理想が高くそれらを実現していくためには時間が足りなくなってしまうことなどが挙げられました。また、自然に恵まれた環境をもっともっと保育に活かしたいという願いが出ました。

先生達からは、時間が足りない、これでいいか不安、評価が気になる・・・など、自信のない発言が多く聞こえてきました。園の行事や年齢ごとに体験させたい活動がある中で、自由に子ども達の思いを形にしていくにはどうしたらよいかなどを実際の公開保育で「サークルタイム（話し合い）」を見てもらい、深めていきたいという課題でした。

### 2. STEP4で示された課題（「問い」）

**5歳児** ①話し合いの様子を見ていただいて、子どもたちは友達の様々な思いや考えを認めていきながら話し合いに参加できていますか？

②子ども達は、話し合いをもとに、活動を楽しむことができますか？

**4歳児** ①話し合いの場で、どうすればもっと友達の意見に興味を持てるような進め方ができるのか、気づいたことや感じたことを教えてください。

②好きな遊びを発展させていったり、子ども達の興味が持てる環境構成はできていましたか？

また、貴園ではどのように工夫されているか教えてください。

**3歳児** ①子ども達それぞれがやりたい遊びを見つけ、遊びこむことができますか？

また、そのための環境構成ができていましたか？

②子ども達の遊びがさらに深まるようにするには、どのような援助や声掛けが必要だと感じられますか？

**2歳児** ○個々の発達に応じて、好きな遊びを見つけて楽しめる環境になっていますか？

**0・1歳児** ○ゆったりとした環境の中で、子ども達が好きなものを見たり、触れたりしていますか？

また、その中で自分の気持ちを安心して表していますか？

### 3. STEP4の参加者からのフィードバックで得た良さや課題

良さ ・保育者がひとりひとりと愛情をもって丁寧に関わっていた。また、保育者の話し方が穏やか。

・子どものペースを大切にされた保育ができていた

・保育者間の連携がとれていた。

・自然が豊かでよい環境である

・話し合いの場面では、友達の話を聞くことができたり、思いを言葉にして発言したり、みんなが参加できていた場面が多く見られた。

・言葉で話したことを製作などで表現できていた。

・子ども達が自分のやりたいことに取り組みやすく、好きな遊びに安心して取り組める環境だった。

課題 ・子ども達の「やりたい」をどこまで受け止めたらいいか

・他学年との縦の繋がり

・コーナー遊びについて

・子ども同士のトラブルにどこまで介入したらよいか

#### 4. STEP5 において整理された良さや課題並びに課題解決の方策

STEP 4 で参加者から得たフィードバックが書かれた付箋や分科会で話されたことの記録をあらためて読み、内容を他学年と共有した。

年長 サークルタイムでは、子ども達の「話す」「聞く」姿勢が育っている。

造形活動では、話し合った気持ちや想像などを形にできていた。友達や相手を思いやる行動や言葉が出ていた。

保育者の声掛けや関わりがよい。気持ちを多様な形で表現できていた

年中 保育者に包容力やパワーがあり、活動への導入や言葉掛けが良かった。興味を引き出す関わりができていた。

子どもの発想力が育っている。環境設定が、子ども達が自分で行動できるように工夫されていた。

年少 子どもに寄り添った保育ができていた。保育者が、子どもとの関わりを楽しみながらの保育。遊びが深まる環境構成。

保育者の素材選びや玩具づくりに工夫が見られ、子ども達が遊びを発展できる力が育っている。

友達の存在に喜びを感じられる環境づくりができていた。

乳児 コーナー保育が充実していた。保育者が子ども達の気持ちを受け止め、やりたい気持ちを大切に保育ができていた。

手作りおもちゃが工夫されていた。あたたかい雰囲気。テラスなどの環境が良い。ひとりひとりに丁寧な保育。

その後、学年ごとに「すぐやる」～「じっくりやる」の軸で仕分け、今後の課題への取り組みを考えた。

#### 5. まとめ

牛川育英幼稚園は、臨済宗妙心寺派の「正圓寺」が母体となり昭和50年に寺子屋があった頃の思いを受け継ぎ開園。

平成29年には、幼保連携型認定こども園として新たなスタートを切られました。

ひとりひとりが持っている「自ら伸びる力」を活かせる環境をつくることを園の役割と考え、日々の保育に取り組んでこられました。自然が多い豊かな環境の中で、子ども達はのびのびと遊び、自分の思いを言葉にして表現したり友達の話に耳を傾けたりしていけるよう先生方は常に工夫されています。

**教育方針** 強く・仲よく・伸びることを目標とし、自然の恵みの中で豊かな情操を培うとともに、一人ひとりの適性を生かし、自主的に活動できる子どもの育成をめざす。

**保育の特長** ○五感で感じる直接体験「感性を豊かに」 ○生活の中の育ちを大切に ○子どもの想像や発想を大事に  
○「食」を通して学びます ○結果よりもプロセスを大事に ○体を動かす楽しさをもっと ○英語の時間

ECEQを通して、職員同士が思いを言葉にして伝えあうことの大切さに気付き、共通の目標に向けて頑張っていることを再確認できたようです。また、参加者から客観的な意見をもらえたことで、保育に対する視野が広がり、活動の見直しや新たな挑戦への意欲に繋がっていくことでしょう。たくさんのフィードバックで自分たちでは気づけなかった自園の良いところを知ることができ「自信がない」「これでよいか不安」と話していた職員達の自信や意欲の向上も感じられました。

園の目指す『子どもが主体の活動』は事前に内容を決めておけるものではないため、保育を進めながらも他のクラスと共有したり、学年の壁を越えて職員間の連携や意見交換したりすることがとても必要であると振り返りで多く出ていました。改めて牛川育英幼稚園の目指すところや大切にしたいところを職員間で話し合いたいという前向きな意見もありました。

通常保育を行いながら園内研修の時間を確保することが今後の課題となるでしょうが、今回のECEQでの経験をもとに、課題について語り合い、さらに良い保育をめざしていけることを願います。